

課題名	九州におけるヒノキ天然更新の研究
開発期間	開始年度 43年度 調査年度 46年度 終了(見込)年度 47年度
開発担当者所属氏名	計画課 <del>田</del> 田 義 隆
経費	
開 発 目 的	
種子および稚樹の流亡、異種間競争等強烈な消失要因の多い九州地方で、 消失回避策の生理生態的な検討を行ない、天然更新成立の作業体系を明らかにする。 <span style="margin-left: 150px;">↓ 下種</span>	
開 発 計 画	
種子生産から、落下飛散、稚樹定着の各段階を経て後継林成立までの消失要因を調査し、その回避補整手段を明らかにする。	
宮林局における開発結果の評価および普及計画の概要	量的プロセス、林内相対照度等の環境条件、必要種更新または、樹下植栽施業の実用化試験が効率的

実 施 経 過
<ol style="list-style-type: none"> <li>人工社会林における上方天然下種更新で種子生産から後継林成立までの量的プロセスの試算方法を検討した。</li> <li>林内後継樹成育のための上木の間伐度合と林内相対照度ならびに標示方法について検討した。</li> <li>天然下種更新の適地類型化を検討した。</li> </ol>
開 発 結 果
<ol style="list-style-type: none"> <li>量的プロセスをもとに九州地方のヒノキ天然更新について予測的に可能性を立証することができた。</li> <li>適地類型化については、引続き調査検討を要するが火山灰地帯(菌害回避)20度以下の緩斜地(流亡回避)などが適地と考えられる。</li> <li>上木の間伐度合と林内相対照度ならびに標示方法については、立地、林分条件などを要因として引続き調査検討が必要である。</li> </ol>
<p>な補整手段など基礎的なものが解明できたので、これらをもとにして天然下 に実施できる。</p>